

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471300105		
法人名	医療法人 大分厚生会		
事業所名	グループホーム川崎(Ⅱ)		
所在地	大分県由布市挾間町古野254番地3		
自己評価作成日	令和3年 2月8日	評価結果市町村受理日	令和3年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年 3月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、自然が多い所にあり、当施設の窓から、由布岳・鶴見岳の美しい景色が観えます。2、併設の診療所や、近所には医科大学病院があり、医療面も充実しております。3、隣接した法人施設への行事の参加や、当GH内での行事施行を入居者と一緒に行ったりし、常に寄り添う介護を職員心掛けております。4、当地域と馴染むよう出来る範囲で、行事に参加しつつ、散歩時など地域の方への声掛けも忘れずにしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・どこかで自然豊かな環境にありのんびりと過ごすことが出来る。
- ・母体が医療法人であり、医師や看護師との連携が取れており医療面で安心である。
- ・地域に密着した施設を目指し地区の人とのふれあいを重視している。コロナ感染症が落ち着けば地区の行事に参加したり交流を図る予定である。
- ・勤続年数の長い職員が多くゆとりをもって支援にあたっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人一人の人間性を尊重し、家庭的で温かい生活を目指しております。それと共に地域と共存・共栄できるグループホームにしていきたいと考えております。	事務所や廊下に理念を掲示している。利用者本位のケアに努め、温かみのある家庭的な雰囲気づくりを心掛けている。地域に密着した施設を目指し職員全員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当法人は地域の自治会・老人会に加入しており、出来る範囲で行事等に参加しておりますが、新型コロナ拡大防止により、現在は参加を見合わせております。状況が落ち着き次第、行事の参加や、日常での散歩での声掛けなどで、地域に馴染めるよう心掛けていきたいです。	コロナ感染症が落ち着けば地域の行事への参加も再開したいと考えている。次回の消防訓練には自治会長へ参加を呼び掛ける予定である。自治会の情報収集に努めており、地域とのつながりを持つようとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を通じて、入居者家人や、自治地区長・自治委員などに働きかけをし、各地域の高齢者の暮らしについて等の情報収集し、その内容を検討し、可能なものは、還元・実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回当該施設関係者のみで行っており、今年度の外部の参加者は現在、新型コロナ拡大防止により、参加を見合わせており、後日電話などの連絡で対応しております。今後状況が落ち着き次第外部の参加を徐々にやりたいと同時に、前回外部評価にも出ました由布市職員参加を働きかけたいと思います。	今年度は内部のみで開催し結果を委員に報告している。今後はリモートによる会議を取り入れようと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当法人含め、定期的に市担当者との連絡をし、運営上の事から小さな悩みの事までのご相談をし、常時アドバイスを頂いております。今後、新型コロナによりGH及び当法人に様々な影響があると思われる、引き続き市と密に連絡・相談を希望对応していきたいと思っております。	疑問や困難事例などあれば、直ぐに市の担当者に電話で相談して適切なアドバイスを受けている。コロナ対応についても相談するなど市と常に関係を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことなく出来る限り自由かつ安全に配慮した生活が送れるように常に心掛けています。同時に、当法人の内部研修や身体拘束委員会に参加し、各職員に報告・共有し、身体拘束のない生活を目指しています。	利用者の行動を制限しないようにしている。常に気を配り一緒に歩くなど利用者にストレスをためないような支援を心掛けている。日中は玄関や階段のドアの施錠はせず、利用者は自由に行動することが出来る。県や市の研修にはオンラインで参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく、言葉の虐待も同様に認めてはならない問題である。その件に関しても研修で行っているが、常時職員が心掛け最新の注意を払い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では事例はないが、内部研修などにより、認識を深め、必要な場合は、いつでも対応・支援ができる体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時から契約時まで、丁寧な説明を、併設相談員を交えて行い、個々の立場を尊重した対応をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在新型コロナ拡大防止により、面会制限していますが、物品受け渡し等は玄関で行っており、その際にご意見等を聞いております。それ以外の方々には時折、電話でお話を聞いています。その中で、重要な意見等があれば、ケアマネ、相談員、幹部等と話し合い対応に努めています。	現在は玄関先での対応となっているが、そこで家族から意見などを聞いている。家族からは面会できないので体調を知らせてほしいとの要望があり、本人の写真を撮って送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在新型コロナ拡大防止により、会議を見合わせている状態であり、各部署にての会議等で情報の共有をしています。その中で重要な意見等あれば、改めて会議等行い、幹部等に報告できる体制で常時対応しております。	毎月直接職員より聞いている。法人からの情報があれば伝えて、全職員が情報の共有に努めている。職員から直接理事長に意見を言う事もある。勤務や休みの希望を言うことが出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在新型コロナ拡大防止により、職員会議見合わせており、今年度は、都度運営者との話し合いの場を設け、実績や勤務状況、方向性などについて話し合いを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時は、法人での研修が実施され、段階に応じた研修を行っている。また、月1度内部・外部研修報告が職員間での情報の共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナ拡大防止により、近隣グループホームとの交流などは見合わせております。今後の状況が落ち着き次第、近隣グループホームとの交流を改めて検討していきたいと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネからの情報のみならず、ご家族様や利用者様からの情報を得よう努力している。また、入居時の相談・不満があった場合は、話し合いの場を設け、不安内容を明確化し、取り除ける様相談員と連携し、スムーズに入居できるよう対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族が施設見学等を経て、納得のいく入居の運びとなっている。また、当法人・事業所の取り組み内容を説明し、入居者・家族様より、不安・要望等を聞きつつ発展的な信頼関係を築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容からニーズを抽出し、問題点や不安・悩み等を聞き、問題の軽減に努めている。また、今後のサービス内容についても相談し対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の思いを大切にしながら、人生の先輩であることを忘れずに常時接しています。同時に、入居者・職員が尊重しあうことにも努めています。また、日常生活において、入居者の新たな発見があれば、さりげない支援等に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話等で利用者様の現状を報告し、共に支援していく関係を築いています。また、新型コロナの状況が落ち着けば、行事などのお知らせをしていけるよう願っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、新型コロナ拡大防止のため、家族・外部との面会制限していますが、入居者より、家族・友人等の連絡等を希望した場合は、電話・手紙等で支援できるよう努めている。	手紙や電話を利用して家族や親せきに近況等を伝えている。以前は友人の訪問があったが、コロナ感染症予防の為休止している。利用者の写真を送るなどして関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や生活歴を把握し、ホーム内で気心が許せる関係が築ける雰囲気が出るように、職員が居室訪問したり、入居者同士の話場を設けたり、ゲーム交流などを支援し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様には、ご相談等があれば、当GH及び法人相談員にお気軽にご連絡してくださいとのお願いをし、持続的な関係ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からお話を聞いたり、生活の中で入居者とコミュニケーションを図りながら本人の思い・意向の把握に努めて、それを基に、フェイスシートに記入している。また、利用者の思い・意向が困難な場合は、日頃の支援等の中で表情や反応の中で探り出し、対応している。	入居時に利用者のこれまでの様子等の情報をシートに記入し職員全員で共有している。日々のかかわりの中での会話やしぐさ、行動から利用者の思いを汲み取り記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、利用者やご家族様より、生活歴や生活環境、趣味等を聞き、その利用者にあった生活が送れるように支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時記録や申し送りで状態の把握に努めており、生活の中で常時入居者一人一人の心身の状態を基に入居者の対応を考慮し、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングシートを基に家族の意見や満足度を聞き取り、定期的なカンファレンスで利用者・家族・職員の意向を取り入れ介護計画を作成し、全体で共有している。	3か月に1度モニタリングを行ったり、状態が変わればその都度職員みんなで検討しプランの変更を行っている。家族や本人の意見を聞いて計画作成担当者を中心に職員で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動記録に入居者の24時間の変化、介護計画に沿った実践記録を記入している。また、その情報を共有し計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には複数の施設があり、各事業所との連携を取り、支援している。また、各家族との連絡も都度行い、現在の状況等を説明し、支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当法人は古野自治区と防災協定を結んでおり、祭りの参加などの交流をしながら、地域に馴染めるよう努めている。また、消防・警察などとも協力関係を築いており、特に消防とは、防災訓練にて密に協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体である川崎内科が定期的に当GHIに往診し、利用者の安全と信頼を得ている。また、入居前に通院していた医療機関や専門医を希望した場合は、川崎内科医師との相談の上、柔軟な対応を行っている。	入居時、これまでのかかりつけ医をそのまま利用することもできるが、母体の医療機関を勧めている。専門病院などへの受診は家族対応であるが、行けない時は職員が同行している。2週間に一度の往診がある。突発的な体調不良は母体クリニックの医師と相談して対処している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは医療法人が運営されているため、併設内科看護婦が、健康管理などの対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関との連絡は当法人が内科を運営しており、迅速な対応が可能である。また、入院先の医療機関の主治医・看護婦との連絡や申し送りなどの連携を密にとり、支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状が悪化した場合やターミナル期については、その都度ご家族様と話し合い、意向や今後の方向性・意思等を医師や相談員を交え伺っている。また、職員間で該当利用者の状態を把握・支援し都度当法人の内科医師・看護婦と連絡等し、対応に努めている。	入居時に重度化した場合の対応を本人・家族に説明し同意を得ている。状態が変わればその都度希望を聞いている。看取りを行う体制は取られている。家族と相談し医師や看護師と連携を取り、最期まで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の備えとして、当法人のマニュアルを備えて、内部研修をし随時対応できるように備えると同時に、当法人の内科・老健にも連絡・協力できる体制である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	古野自治区と防災協定を結んでおり、災害時には協力が得られるようになっている。避難訓練も当法人で定期的に行われており、速やかな避難ができるよう努めている。また、食料備蓄については当法人と当法人の厨房と契約している会社と協定を結んでおり、災害時、すぐに支援できるようになっている。	年2回の避難訓練を行っている。今後は地区の人も参加する予定である。昼間や夜間想定避難・通報・初期消火の訓練を行っている。備蓄は法人に3日分あり、厨房の業者が管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者一人一人を尊重し、入居者に対しての声掛け・接し方・プライバシーの保護に注意して対応している。また、個人情報についても、研修などもそうだが、常時外部に漏らさぬよう全職員努めている。	利用者の個人情報等は外に漏らさないように職員間で徹底している。私情が入ることを防ぐため利用者にあまり深く入り込まないようにしている。トイレ誘導では周りに聞こえないように配慮して声掛けをするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のそれぞれの性格に合わせた対応に努め、利用者の自我が難しい場合はご家族様、相談員、外部などの協力にて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的なリズムはあるが、体調や気分により、自室で過ごしたり、気分良ければ、ホールにてレクなど、本人の希望に合わせた対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常時身だしなみには気を使っているが、理美容については、現在新型コロナ拡大防止の為、外部の依頼や美容関係の店へ行く等は控えており、出来る範囲で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなどは、利用者が出来る範囲で一緒に行っている。また、食事中は出来る範囲で、話や声掛けをし、家庭的な雰囲気作りに努めている。また、利用者の好き嫌いや嚥下状態を把握し、都度当法人の栄養士と連携し支援している。	母体の老健の厨房より副食が来るが、ご飯と味噌汁は事業所内で作っている。利用者と一緒にやせうまづくりをしたり、味見をする人もいる。年に一度嗜好調査があり食べたいものを聞いている。刺身を出したこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の一日の栄養・水分摂取量等を基に当法人の栄養士が献立を作成し都度利用者の好みを入れつつ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣や有する力を活かしながら状態を確認しつつ、口腔ケアの支援を行っている。また、月1回の口腔ケア研修に参加(現在は資料のみ配布)し、口腔ケアの支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全利用者の排泄パターンを把握し、それぞれに合った対応を無理のないようかつ、プライバシーに注意して行っている。また、オムツ・パット使用については、なるべく多くを使用しないよう注意しながら支援している。	日中はほとんどの人がトイレ使用である。排泄パターンを把握しており、時間を見て声掛けをトイレへ誘導している。各部屋にトイレがあり夜間も声掛けしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い利用者個々に合わせた生活や軽度の運動等を行っている。また、排便困難な方には医師との相談の元薬などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の要望に応じていつでも入浴が可能である。他にも汚れが気になった時や失禁など状況に応じて入浴などの対応を行っている。また、その日の体調に応じて清拭等に変更したりと、清拭保持に努めている。	週2回の入浴である。基本は午前中だが希望すれば午後でも入れる。体調が悪いときは清拭に変え体の清潔を保っている。入浴を拒否する時は気を紛らせたり声掛けの方法を変えるなどして利用者主体に考えている。入浴剤やザボンを入れることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スペースを確保しており、ゆったりと心地よい生活が出来るようになってい。また、昼夜逆転を防ぐように都度各居室への訪室・声掛けや活動等の支援を行い充実した生活が送れるよう行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は全入居者の服薬情報を把握し、服薬の際は毎日チェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全利用者の生活歴や趣味などを把握し個々の身体状況に応じて、役割をお願いしたり、レクリエーションを一緒にしたり等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナ拡大防止の為、基本外出・散歩は見合わせており、なるべく室内での活動等に対応していますが、もし、入居者より、散歩等の強い要望があれば、内科医師と相談し感染状況に応じて検討・対応しています。状況が落ち着けば、徐々に外出等を検討しています。	コロナ禍で外出ができない現状だが、施設の周りを散歩し満開になった桜を眺めて楽しんでいる。状況が落ち着けば以前のようにドライブをしたいと考えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理簿を作成し、入出金時は記録している。また、買い物に出たときは、職員が見守りし、職員が代行買い物した時は、大切に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より、手紙・電話の要望あれば、可能な限り対応・支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに、季節の花や、季節ごとの飾りつけ等、季節を楽しむような対応を可能な限り行っている。また、昔のポスター等を貼り、空間を楽しむ対応も行っている。	食卓にはアクリル板を設置しており、手指消毒や検温、室内の換気を実施し新型コロナウイルス感染症対策を行っている。食堂にはテーブルやソファが置かれ、ゆったりとテレビを見ることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、椅子・テーブルを設置し過ごしやすいよう配置している。また、ソファを設置し、リラックスできるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々アパートだったので、各居室には、流し台やトイレ等が設置されており、家庭で馴染みの物を持ち込んでもすぐに馴染めるようになっている。また、自分の衣服などを干してあったりと、家庭的な雰囲気も所々見られる。	使い慣れた家具や小物、テレビなどが家から持ち込まれている。家族の写真が飾られ自宅にいる時と変わらない部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、風呂場やトイレなどには手すりが取り付けられている。また、手すり等の設置の希望があれば、都度検討し、支援していく。		